

第13回 松戸駅周辺まちづくり委員会 議事録

日 時 令和2年10月12日(月)10時00分から11時30分まで

場 所 松戸市役所 新館7階 大会議室

出席委員 委員10名(別紙 委員名簿のとおり)

欠席委員 轟委員、横井委員、長江委員、高橋委員、大須委員

事務局 街づくり部長、街づくり部審議監、新拠点整備課長 他3名

傍聴者 10名

議 題

1. 新拠点ゾーン整備基本計画(素案)について
2. パブリックコメント実施について
3. その他

配布資料

1. 次第
2. 新拠点ゾーン整備基本計画(素案)
3. 新拠点ゾーン整備基本計画(素案)【概要版】

開会

司会

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日の司会進行役を務めさせていただきます、新拠点整備課の飯田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

また、本日は、日本建設新聞社 森正 様、日本建設通信新聞社 片岡 様、建設工業新聞社 木全 様、松戸よみうり新聞社 竹中 様、千葉日報社 柏・松戸支局 伊藤 様、朝日新聞社 青柳 様の計6社の記者から取材の申出がありましたので、入室につきまして予めご了承くださいたいと思います。

記者の皆さまにおかれましては委員会終了後、質疑の時間を設けさせていただきますので、ご希望される方は退室後、会議室前で少々お待ちいただけますようお願いいたします。委員会終了次第、事務局からお声をかけさせていただきます。

始めに、1点ご報告いたします。

松戸駅周辺まちづくり委員会は、任期満了に伴い本年7月25日付けにて、お手元資料「松戸駅周辺まちづくり委員会委員名簿」のとおり再任・新任いただきましたことをご報告します。また、横張委員長、秋田副委員長におかれましては、前任期より継続して委員長・副委員長を引き受けていただけることになりましたのでこの場を借りてご報告いたします。

次に本日の流れにつきまして、簡単にご説明させていただきます。

この後、委員の皆さまにご挨拶をいただき、会議の公開・傍聴の許可の確認まで僭越ながら私が進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

その後、議長であります横張委員長の進行のもと、議事を進めて参りたいと考えております。

委員長挨拶

司会

それでは、本年度から新たに委員に任命されました方もおられますので、横張委員長より反時計回りに一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

横張委員長

ただいまご紹介に預かりました東京大学の横張でございます。

前年に引き続きまして、委員長を拝命することになりましたが、是非闊達なご議論をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

秋田副委員長

千葉大学の秋田でございます。よろしくお願いいたします。

私も前年度に引き続きということで、またお世話になりますけれどもよろしくお願いいたします。

岩田委員

松戸市商店街連合会顧問の岩田富久司と申します。

松戸駅前貸しビル業をしております、一番経験がある委員かなと思います。前回に引き続きよろしくお願ひいたします。

薄葉委員

松戸商工会議所の専務理事をしております、薄葉と申します。前回に引き続きということでございます。よろしくお願ひいたします。

今委員

千葉県東葛飾土木事務所の今と申します。今年度から委員になりました、よろしくお願ひいたします。

小川委員

市役所経済振興部長の小川と申します、どうぞよろしくお願ひいたします。

伊東委員

松戸市役所の総合政策部長の伊東と申します。今年度からどうぞよろしくお願ひいたします。

林委員

皆さんこんにちは。松戸駅周辺活性化推進協議会会長の林でございます。この松戸駅周辺の松戸通りの自社ビル他のビルの管理オーナーをしております林でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

恩田委員

松戸市町会・自治会連合会の恩田と申します。今回2年目になります。よろしくお願ひいたします。

司会

ありがとうございました。

会議の公開について

司会

次に、会議の公開につきまして確認を致します。

当委員会は、松戸駅周辺まちづくり委員会の運営に関する要領第3条により原則、会議は公開となっております。本日の委員会につきまして、公開すること及び、傍聴の許可をすることにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

ご異議がないようですので、本日の委員会は公開といたします。

続きまして、本日の会議の傍聴について、報告させていただきます。

10名の方より申し出がありました。

「松戸駅周辺まちづくり委員会の傍聴に関する要領」の規定に基づき、傍聴人が定員の15名以内でございますので、申し出全員の傍聴を許可してよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

それでは、傍聴者の入室を許可します。

(傍聴者入室案内)

なお、ここからの議事につきましては、「松戸駅周辺まちづくり委員会条例第7条第1項」により、横張委員長に議長をお願いしたいと存じます。

よろしくお願ひ致します。

横張委員長

はい、かしこまりました。

それでは只今より、議事次第に従い議事を進めてまいりたいと思います。

出席状況について

横張委員長

それに先立ちまして、本日の委員会の出欠状況につきまして、事務局よりご説明をお願いします。

司会

本日の委員会は委員15名の内、11名の出席をいただいております。また、高橋委員につきましては、少し遅れております。

従いまして、松戸駅周辺まちづくり委員会条例(第7条第2項「委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。」)の規定を満たす、過半数の出席をいただいておりますので、本日の委員会は成立しておりますことをご報告いたします。

なお、太下委員につきましては、ZOOMミーティングにて出席をいただいておりますので、予めご了承いただきたいと思ひます。

また、会議につきましては、記録として録音させていただきますのでご了承いただきたいと思ひます。

横張委員長

はい。どうもありがとうございました。

議事録署名人選出

横張委員長

次に、本会議の議事録署名人についてですが、委員の皆さまから私の方で指名させていただいてもよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

横張委員長

ありがとうございます。

それでは、本会議の議事録署名人につきましては、岩田委員と今委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

岩田委員、今委員

異議なし

横張委員長

ありがとうございます。では、よろしく願いいたします。

議事

横張委員長

本日の議題ですが、「新拠点ゾーン基本計画」が主な議題となります。

「新拠点ゾーン整備基本計画の策定について」は、第11回松戸駅周辺まちづくり委員会で諮問を受けているところですので、本件について委員会で審議し答申することがミッションとなります。

それではまず「新拠点ゾーン整備基本計画（素案）について」事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局説明

新拠点整備課

おはようございます。事務局の新拠点整備課の木原でございます。

私から「新拠点ゾーン整備基本計画（素案）」について、ご説明させていただきます。座らせて説明させていただきます。

はじめに、第11回松戸駅周辺まちづくり委員会での「新拠点ゾーン整備基本計画の策定について」の諮問書提出後の経過を簡単にご説明させていただきます。

令和元年度の5月にシンポジウム、さらに全6回のワークショップを行い市民の皆さまや若手職員の意見を踏まえ本計画の策定を行いました。

また、松戸駅周辺まちづくり委員会の専門チームの先生からご指導・ご指摘をいただき、さらに修正を加えた上で、素案を作成いたしました。

更に、関係各課で構成されている庁内検討プロジェクトへ素案について諮り、指摘事項の修正を行い、その後、庁内の合意形成を経て本日を迎えております。

簡単ではございますが、以上をもって経過の説明とさせていただきます。

それでは、「新拠点ゾーン整備基本計画（素案）」についてA3両面・片袖折りの概要版にて、ご説明いたします。

右上に序章、第1章と書いてあるのが表面となります。

はじめに、その表面左上の序章「新拠点ゾーン整備基本計画について」をご覧ください。序章では、本基本計画と上位計画との関連及び、本計画の考え方として構成について説明しております。

次に、その右の第1章「新拠点ゾーン整備基本計画策定にあたって」をご覧ください。ここでは2つの上位計画である「松戸駅周辺まちづくり基本構想」及び「新拠点ゾーン整備基本構想」で示したコンセプトを記載しております。

次に、右上をご覧ください。「本市をとりまく社会動向」として6つのカテゴリーにまとめております。

1つ目は「少子高齢化の進展と人口減少社会の到来」でございます。

2つ目は「公共施設の再編」でございます。これは、昭和40年代から整備された公共施設の老朽化が進み、大規模改修や建て替えが集中的に発生することでございます。

3つ目は「コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくり」でございます。これは、鉄道6路線23駅を有する強みと、バス路線を生かした多極ネットワーク型コンパクトシティの都市構造による、活力あるまちづくりを推進していることでございます。

4つ目は「ライフスタイルの変化」でございます。これは、「働き方改革」の推進により、時間や場所にとらわれずに、柔軟に働ける環境整備が進んでおり、都心近郊で高い交通利便性を有し、良好な居住環境が整備されている本市では、テレワークやコワーキングを含めた、多様な働き方のサポートが可能な大都市近郊の街づくりを進めることでございます。

5つ目は「災害への対応」でございます。これは、近年、地震や異常気象などに起因する大規模な災害が多く発生しており、災害発生時における帰宅困難者の対応や、大雨に対する水害対策が強く求められるなか、現在の市庁舎は、老朽化及び耐震性能不足に加え、万が一、江戸川の堤防が決壊した際、浸水被害により庁舎周囲の水没が予測されているなど、災害対応機能が十分に果たせない状況となっていることでございます。

6つ目は「新型コロナウイルス感染症の世界的大流行」でございます。これは、変容していく社会にも対応できるよう、施設整備などについて、現時点で決めてしまわずに、これからの検討課題として残しておく部分を含むことが必要であることでございます。

次に中ほどのMATSUDOING 2050の取り組みをご覧ください。

本計画の策定にあたり、市民約 50 名と市の若手職員 30 名が参加し、今後のまちづくりを一緒に考えるワークショップ MATSUDOING 2050 を開催しました。

なお、ワークショップでは、本計画の作成そのものを議論するのではなく、松戸駅周辺地域の 30 年後の将来を議論いたしました。

また、闊達な議論となるよう、各回のテーマに応じて、コンダクターやキーノートの専門家からレクチャーをいただきました。ワークショップ参加者の主な意見は左側に、レクチャーいただいた内容は、右側に掲載しております。

これらを踏まえ、「松戸駅周辺におけるまちづくりの方向性」を整理いたしました。まず左下に「松戸駅周辺のポテンシャルと生かし方」として、3つのカテゴリーに整理しました。

1つ目は、「豊かな自然環境」であり、都心近郊でありながら、江戸川や坂川、松戸中央公園や相模台公園などの、豊かな自然を身近に感じられることとございます。

2つ目は、「受け継いできた歴史性」であり、江戸時代には宿場町として賑わい、当時の建造物や寺院が今も残り、新拠点ゾーンにおいては、陸軍工兵学校や千葉大学工学部が立地していた歴史性を感じられることとございます。

3つ目は、「多様な活動を受け入れる基盤」であり、松戸駅周辺は東京の衛星都市として発展し、生活利便性が確保された、賑わいのある市街地が形成された一方、人と人とのコミュニティや、都心にはないゆとりある空間や自然が残され、市民の様々な活動に応じた場の提供ができることとございます。

次にその右側に、「松戸駅周辺で改善すべき課題」として、4つのカテゴリーに整理いたしました。

1つ目は、「都市機能の更新」であり、昭和 40 年代に整備され良好な市街地を形成してきた都市基盤は、近年更新の時期を迎えており、新拠点ゾーンの官舎跡地など、土地の有効活用が図られていないこととございます。

2つ目は、「駅と新拠点ゾーンのアクセス改善」であり、松戸駅と新拠点ゾーンには約 20 m の高低差があり、歩行者・自動車ともにアクセスに課題があることとございます。

3つ目は、「まちの活力の低下」であり、松戸駅周辺の商業・業務面において活力が薄れつつあることとございます。

4つ目は、「災害時の不安」であり、松戸駅周辺が浸水想定区域となっており、集中豪雨の際、水害対応が求められるほか、近年頻発している地震への対策など、防災機能の強化が必要とされていることとございます。

続きましては裏面となります。左上の「第 2 章 新拠点ゾーンに求められる機能」をご覧ください。

第 2 章では、第 1 章で整理した松戸駅周辺の将来像から、新拠点ゾーンの可能性や役割を踏まえ、求められる機能を整理いたしました。

1つ目は、「みどりを豊かに生かす機能」でございます。これは、現状の豊富な資源でもある樹木や草花などの「みどり」を十分に生かし、豊かなまちを構成する様々な環境の総体

である「みどり」として再構成することで、松戸の魅力となり、新たな世代に受け継がれていくことでございます。

2つ目は、「多様な暮らしを充実させる機能」でございます。ここでは、好ましい機能として、さらに3つのシーンを示し、これからも議論し続けること、作り上げた後も変化することを前提に整理いたしました。

1つ目のシーンは「人々と交流し学びたい！」でございます。市民活動や人と人との交流を促し、豊かな歴史や文化などの学びをサポートし、松戸中央公園の豊かなみどりを中心に、観劇、アート、展示、音楽などの様々な活動が目的や用途、時間や季節に応じて様々な場所で展開され、市内外を問わず多くの方が交流できる新拠点ゾーンを目指してまいります。

2つ目のシーンは「松戸ならではのワーク・ライフ・バランスを実現したい！」でございます。新拠点ゾーンでは、みどりと連携し、様々な活動をサポートするスペース、滞在型図書館機能、松戸の歴史や文化・自然に触れあい、学べるカルチャーゾーン、サテライトオフィスなど、様々なアクティビティの受け皿となります。

また、平常時だけでなく非常時においても、サテライトオフィスなど、情報通信ネットワーク、事務機器の支援サービスを提供できる環境により、職場に通勤せず職務を遂行できる、事業の継続性を担保するバックアップ機能を果たします。

3つ目のシーンは「質の高いサービスを受けたい！」でございます。産官学民連携で福祉・子育てなど、暮らしを支える様々な機能を集約し、行政と民間事業者が連携しながら、便利に気軽なサービスが利用できる機能を取り入れてまいります。

機能の3つ目は、「暮らしの安全・安心を支える機能」でございます。

非常時の中心的な役割を担う防災拠点として、災害対応機能や減災機能を整備し、新拠点ゾーン全体には、帰宅困難者一時滞在施設となる公共施設などを適正に配置いたします。公園の広場を各種災害対応を補完するための場所として活用し、レジリエンス（復元力）を確保いたします。

続きまして右上の「第3章 新拠点ゾーンにおける空間形成」をご覧ください。ここでは、第2章でまとめた、3つの機能を実現するための空間形成を示しております。

1つ目は「みどりを豊かに生かす機能」について、ゾーン中央の「オープンな場」で展開いたします。ゾーンの位置については、中央上部の図をご覧くださいと思います。

「オープンな場」は、みどり豊かな空間を中心に、次にご説明する「試みの場」、「支える場」と連続した一体感をもたらす場でございます。

2つ目は「多様な暮らしを充実させる機能」について、ゾーン北側の「試みの場」で展開いたします。これは、「多様な暮らしを充実させる機能」を市民や民間事業者、大学、行政などの協働により可能性を検討・実践し続ける場でございます。

3つ目は「暮らしの安全・安心を支える機能」について、ゾーン南側の「支える場」で展開いたします。これは、行政機能を中心として非常時の災害対策や復興の拠点とするとともに、日常では市民サービスを充実させる場でございます。

新拠点ゾーン全体では、3つの場がそれぞれに求められる機能を体現する場としながらも、目的・建物用途・建物内外の場所に捉われず、誰もが気軽に利用できる空間として、時には複数の場が一体として活用されるなど、日々形を変えながら新拠点ゾーン全体に効率よく展開され、相互に補完し合える空間形成に取り組んでまいります。

次にその下の、新拠点ゾーンと周辺交通に関する考え方でございます。併せてその左側のイメージ図もご覧ください。

ここでは、新拠点ゾーンの整備における周辺交通に関する基本的な考え方を、歩行者、自転車、自動車の動線について個別に示しております。

①の歩行者動線としましては、台地部の新拠点ゾーンと周辺をつなぐ主要歩行者動線として、松戸駅と新拠点ゾーンを結ぶシンボル軸を段階的に整備し、また南側のS字の市道は、歩道の拡幅、道路勾配や見通しの改善を図ります。

さらに、南側へのアクセス向上を図るため、相模台公園隣接地への市役所機能の再編整備と連携して、エスカレーターやエレベーターなどの歩行者動線を整備いたします。これらにより、全ての人々が高低差のある地形を妨げと感ずることなく移動できる歩行者中心のまちづくりを目指します。

②の自転車動線としましては、自転車駐車需要に対応し、良好な歩行者空間を創出いたします。既存自転車駐車場の再整備や増設を行い、また市道の再整備により、自転車通行帯を整備するとともに、道路勾配の改善を図ります。

③の自動車動線としましては、国道6号上り車線に右折レーンを整備いたします。また、一方通行の南側のS字の市道を、相互通行にすることや、駐車場を適正に配置することで、新拠点ゾーン内での自動車の滞留を抑制し、新拠点ゾーンを訪れる多様な人々の快適性を向上させたいと考えております。

続いて左下の第4章 新拠点ゾーン整備に向けてをご覧ください。

ここでは、今後のスケジュールや事業手法を示しております。これまでの検討を踏まえつつ、アフターコロナの社会に向け、可変性をもたせた上で慎重に進めてまいります。また各施設の整備の際は、MATSUDOING 2050 などの取り組みの中で、市民参加によって検討してまいります。

事業手法につきましては、記載のスケジュールに従い段階的に行います。

第1段階としましては、土地区画整理事業により、駅周辺の土地利用としてふさわしい基盤を形成します。また、新拠点ゾーンとその周辺の用途地域の変更などを行い、国有地を取得いたします。

第2段階としましては、災害時の減災・復元力などの支援機能を始めとする市役所機能を再編し、南側を中心に整備いたします。

第3段階としまして、MATSUDOING 2050 などにより、市民とともに検討を進め、オープンな場と連携した商業・業務・文化機能の整備を検討いたします。公園整備につきましては、MATSUDOING 2050 などにより市民とともに検討を進め、試みの場・支える場と連携した公園整備を行ってまいります。

最後に、右下の「第5章 概算事業費」でございますが、基盤整備として、約65億円、市役所機能の再編整備約182億円、その他事業として、駐車場・駐輪場整備約54億円と試算しています。

なお、想定される財源としましては、仮に保留地を売却した場合約162億円、30年間で想定される事業効果を約114億円と試算しております。

以上、基本計画（素案）の説明とさせていただきます。

審議

横張委員長

はい、どうもありがとうございました。それではただいまご説明いただきました基本計画（素案）につきまして、皆さま方よりご意見、ご質問等を頂戴したいと思います。本議題が本日のメインとなると思いますので、是非闊達なご意見、ご質問をお願いしたいと思います。なお、Zoomにて太下先生と音声繋がったみたいですので、是非ご意見、ご質問等いただければと思います。それではいかがでしょうか。

今概要をざっと説明いただきましたので、よくわからなかった箇所等あると思います。もう少し詳しく説明してほしいといったご質問でもけっこうですので、よろしく願います。

少し時間を要するかもしれませんが、では、私から1つ。

本市を取り巻く社会動向ですが、昨年度ずっとワークショップを進めてきましたが、その時分と大きく変わったこととして、言うまでもなく、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行があろうかと思えます。新型コロナウイルス感染症をめぐっては、それをいかに収束させるかが、今、世界中の最大の課題の1つとなっていること、これは間違いないことです。人の命、健康を阻害する感染症を一刻も早く収束させたいのは当然のことです。

しかし、この感染症をめぐっては、単に病気の蔓延というだけではなく、これまでの社会の在り方を大幅に見直す潮目になっている、という理解が必要ではないかと思えます。そういった観点からしますと、このリストにある6番目を契機として、1から5の課題が大きく見直されることが問われているのではないかと、私は考えています。

すなわち、この1から5をめぐり、やらなければいけないとわかってはいたが、とりあえず今日でなくていい、明日でもいいんじゃないかと先送りされてきたことが待ったなしになったとか、あるいは1から5を巡って、今まで言われてきたような議論とは、中身が大きく変わったとか、そういう側面があるのではないかと思えます。

例えば、街づくりの観点で申しますと、これまでは「活性化」がキーワードの1つであり、これからもそれがキーワードのひとつであることは間違いない。しかし、従来は「活性化ニアリーイコール経済活性化」であったわけですが、必ずしもそうではないということが、社会通念として定着し始めているのではないかと思えます。

このように、今般の感染症の蔓延を契機に、社会の通念が大きく変わってきていて、その潮目の変化を的確に捉えないと、時代錯誤の、不人気な街、人が住みたくない街を作ってしまうことになりかねないと、私はとても危機感をいただいています。街づくり行政をすすめる国交省でも、これからの街づくりの在り方について、大きな転換点であるとの認識のもと、そのあり方を抜本的に見直す機運が高まっているのですが、そうした動きを的確に捉えていくことが、今後は必要なのではないかと思います。

これまで進行してきた流れを大きく変えるのは、様々な意味でとても難しい。流れに竿をさすのは非常に辛いことでもあるのですが、あえて、その英断を下していくことをしないと、30年後の私たちの子孫から、あのチャンスを何故逃したのかと言われかねないのではないかと。そう痛感しているところです。大きな時代の転換点にいることを、まずは私達が基本認識として共有しなければいけないと考えています。

持論を長々とすみません。皆さまの議論のきっかけになればと思い、申し上げた次第です。どこからでも構いませんので、是非ご意見を頂戴できればと思います。

太下先生、なかなか Zoom ですとご発言が難しいかもしれませんが、もしよろしければ、いかがでしょうか。

太下委員

私の声は届いていますでしょうか。

横張委員長

はい。届いています。

太下委員

すみません。前半の説明はちょっと聞き取りづらかったのですが、基本的に概要版のご説明だったのではないかと。こちらは拝見しております。

今、横張委員長がおっしゃっていたことに賛成いたします。これからの時代ですね、今までと全く違った哲学なり思想といったものが街づくりに向けて必要だと思うんですね。例えばそれが具体的に展開するというのは、どういうことかということ、この概要版の第4章の新拠点ゾーン整備に向けてというところで、街づくりの機能がいくつか記載されています。

例えば市役所機能であったり、商業・業務・文化機能。こうゆう駅前開発になりますと、商業・業務機能は当然書かれるわけですが、従来であれば商業機能については駅前の一等地ですから、例えば百貨店であるとか、ルミネ等の専門店が入ればいいと、そういったことが暗黙の前提であったと思います。ただ、本当にこれからそうなのかという気がします。

まず、これは言わずもがなですが、日本の人口が百年近くかけて半減していった、明治の初期の頃の人口数に戻っていくわけです。すなわち、マーケットはどんどんシュリンクしていくわけです。一方で、このステイホームがずっと続いた中で、皆さん、例えば百貨店で、デパ地下以外で買い物されてましたか。たぶん皆さん百貨店とかで買い物されていないと思います。もっぱらアマゾンやウーバーイーツもそうですけれども、新しい業態、もはや新しくもないですが、そういった新しい形で日ごろの購買活動をしていると思うんですね。

要するに、従来型の商業というものは、これからの30年はもたないかもしれないということをお前提に、もしここで商業ということをお挙げるのであれば、そのことを考えていかなければならないと思います。同様にこの業務機能もですね、従来のこのような駅前開発であれば、いわゆるがらんだりのオフィスビルを作って、テナントを募集すればよかったです。だけれども、これも同様に人口が半減していく世界の中で、単純に考えればオフィスの総面積は半分になってもいいはずなんです。そういった意味でいうと、この業務の在り方というのも全く変わらないといけないことになります。

一方でこれからは人生100年時代と言われていています。仮に将来同じ会社に勤めたとしても、リタイアした後、100歳まで何もせずに過ごすのかという問題が人生100年時代に突き付けられています。恐らく何らかの社会活動をしないと、認知症になっちゃいます。じゃあその高齢で元気な人たちが、社会活動する場はいったいどういう場所なのか。それは従来のオフィスビルではない。もしかしたら新しい起業かもしれませんし、前にもお話したかもしれませんが、4、5年前に上海に行った時に、上海市立の図書館に行ってびっくりしたのですが、図書のセンターとして巨大という以外に、図書館の中に3Dプリンター等が設置されていて、インキュベーションラボがあって、そこで起業したい人達が、新しいビジネスを創造していったんですね。

例えば図書館なんかも変わっていかないといけない。ということも含めて、商業・業務・文化、括りとしてはこれで良いですが、その中身は多分20世紀とは全く違うものをここに造り上げていくんだという意気込みでの計画作りが必要なんだと考えております。

以上となります。

横張委員長

太下先生どうもありがとうございました。私も先生がおっしゃったことにまったく同感でして、是非そうした議論を充実させていければと思う次第です。

岩田委員

今横張委員長のお話、太下委員のお話を聞いて、世の中がずいぶん変わってきた。それこそ新しい生活様式で、「ウィズコロナ」で生活していかなければならないということをお前提に考えていく。その中で例えば商店会のあり方。昔、商店会というと、どうしてもイベントで人を集めて賑やかさを考えていくということですが、それがどこまで許されてくるのか、それから人の往来を多くするためにはどう考えたらよいのか。これからの商業者は考えながら起業していかなければならないと思う。昔のそのままの商業の仕方では、先ほどの人口減少の話もあったが、成り立っていかないと気がしてならない。せっきゃく、新拠点ゾーンを作るのであれば、それに沿ったような形が取れば良いと思うが、どうしたらよいのかわからない。こういう会議で話しながら、新しい様式で新拠点ゾーンを考えていく。そうすると今ここにある書類のどこかについても変えなければならないのでは。総体的には以上です。

横張委員長

ありがとうございます。決意のお言葉を岩田委員から頂き、大変に嬉しく思います。

どうしたらよいかわからないとのことですが、誰もわからないのだと思います。誰もわからないからこそ、松戸が先頭を切ってやっていくことの意味がある。そしてそれが松戸のまちを魅力的にしていく、そういうことになるのではないかと思います。

他はいかがでしょうか。

秋田副委員長

発言の機会をいただきありがとうございます。

私も他の委員の方々とほぼ同じ意見です。この資料の関係上、今回はこのような記述になっていると思いますが、松戸駅周辺の1番重要な機能は、豊かな自然環境よりも「賑わい」であり、豊かな自然環境については、その入り口としての機能を持っていると認識しています。私自身、松戸駅を使い職場に通っておりますが、駅から大学に行く間で豊かな自然環境を感じることは殆どありません。このため、もし駅の近くにみどりを感じることが出来る空間があれば、非常に良いと思います。大学にはみどりがいっぱいですが、居心地が良いかと聞かれると、中々そこでゆっくり過ごそうと思えるような場にもなっていません。居心地が良く、過ごしたいと思えるようなみどりの場が駅の近くにあれば大変ありがたいと思います。

一方で、松戸駅は松戸の中で1番人が集中する場所です。今このコロナの時代にどのような位置付けになるのか再検討が必要ですが、やはり最も人が集積する場であることが松戸駅周辺のポテンシャルだと思っています。

先ほど岩田委員からご指摘があったように、イベントなどで人を集めるのが難しい中で、松戸駅の東側・西側、江戸川などで、分散して回遊性を持たせながら新拠点の役割を検討してゆくことが重要になると思います。

例えば、みどりも松戸市の中には江戸川や矢切の農地など、豊かなみどりがたくさんある中で新拠点は玄関口としてのみどりになりますでしょうし、商業機能については、西口や東口にもあります。駅から新拠点の間にも様々な施設がございます。こうした松戸のポテンシャルを活かしながら、分散・回遊を前提に、新拠点でどういう風に過ごすことができるかを検討できると良いと思いました。

林委員

一昨年まで、松戸駅周辺まちづくり基本構想が策定され、今回新拠点ゾーン整備基本計画について検討ということですが、こういう状況の中で世界全体が温暖化も含めて、災害、台風も50メートル級、地震などがあります。こういう状況で松戸駅周辺のまちづくりの活性化も含めて非常に大切なところだと思います。

しかし、松戸は第2章にもありますように、みどりを豊かに生かす機能というようなこと

です。痛感いたしましたのは2年前に三越伊勢丹松戸店が撤退し、その後キテミテマツドが開業され、ようやく1日の歩行者通行量も1万近い数字となりました。

その反面、新型コロナウイルスで不安な毎日をお過ごしだと思いますが、キテミテマツド通り商店街も1番通行量が多いと思っていましたが、キャンプ、ハイキングなどで江戸川などの方が人通りが多くなってきたと感じていたところです。自転車にしても三郷の橋まで往復すると5キロ、6キロありますが、通行量が多くなっています。

したがって、バランスがよいまちづくりが必要なのだとこの新型コロナウイルスで痛感しています。

江戸川もナンバー2となる通行量になりまして、私も孫と一緒に野球をしたり、サイクリングしたりとテレワークなどには良い環境だと思います。今度の世界的な環境がだいぶ変わってきたことから、バランスの取れた環境づくり、特に川を2つ持っているということは結構な強みだと感じています。

横張委員長

ありがとうございます。

林委員がおっしゃったことに、私も同感です。私も実はスポーツバイクが趣味なんですが、そういうポテンシャルを松戸が持っているということは、大変に大きな資産だと思います。私たちが意識してこなかった様々なポテンシャルが、よく見ると街の中にたくさんあり、それをどうやって上手く活かしていくのか。どのような新しい価値をそこに見出していくのか。それが問われるのだと思います。

また岩田委員からもありましたが、イベントということに関しても、週末に1か所にあらゆる人を集めるとなると、密になりすぎてアウトになってしまうかもしれませんが、在宅勤務の方が増えれば、なにも週末だけである必要性は無くなるわけで、曜日や時間帯を散らし、場所に関しても松戸全体を上手く活かしていくような工夫ができると、結構出来ることが色々出てくる。そういった発想の転換が問われるのだと思います。どうもありがとうございます。

他の皆さま方がいかがでしょうか、太下先生も、今までの皆さま方の発言を伺っていらっしゃるしながら、もし何かさらにご意見等をいただけたらと思いますけども、いかがでしょうか。

太下委員

太下です。

さっき、従来とは全く違う発想なり哲学が必要だという話をしましたが、横張先生もおっしゃっていましたが、何か答えがあるわけではないんですね、こうすればいいという答えがもうない。そういう時代での開発を考えなければいけないということだと思います。

多分、従来の再開発っていうのは割とパターンとかメソッドが決まっていて、大体こう

すれば需要の予測もこういう風に見積もれて、もちろん個々の事務作業や権利調整はものすごく大変だけれども、まあおおむね上手くいくだろう蓋然性というか計画見込みが立ったのだと思います。しかし、非常に怖いことだと思いますが、もはやそういう見込みが立たない時代になおかつ計画をしなければいけない。すごい矛盾の中で街づくりをしていかなくてははいけないわけです。

もちろん何もしないというのも一つの選択肢ではありますが、なにもしなければジリ貧になるだけなので、やっぱり何かしなければならぬ。そこには明確な正解というのはいないという。壮大なチャレンジをするということですね。

実際に関わる地権者の方や市役所の方にとってみると、とんでもないタイミングと迷惑な話かもしれませんが、これは巡り合わせなので是非みなさんと一緒に壮大な社会実験、チャレンジして挑んでいきたいなと思いました。とりあえず以上となります。

横張委員長

どうもありがとうございます。社会実験というのはまさにそうですね。ありがとうございます。他の皆さん方いかがでしょうか。

どうぞ。

伊東委員

松戸市の総合政策部の伊東でございます。皆さまのご意見を伺っておりまして、松戸市といたしましても、今コロナの対策をやっている中でこういった街づくりのお話が進んでいること大変重要だと考えております。本市をとりまく社会動向の中で特に、ライフスタイルの変化というところで松戸市は子育て・教育・文化といったところを軸に、街づくりを行っておりまして、ブランドづくりも行っておりまして、そういった中で特にこういった松戸駅の大半が、またさらに一歩前へ進みますと、大変そういったいい意味での影響があると思いますし、松戸市の公共施設の再編というところも含めますと、やはり古いというところがありますので、綺麗にしていくというところが大変重要なところがありまして、市民の方からも喜ばれるということもありますし、何より市役所の本庁舎の建て替えといったところを含めますと大変重要な意味を持っていると思っております。

街づくり部を中心にフロントランナーとしてこういった計画をまとめていただいているところですが、松戸市として一丸となって整備については前向きにやっていけるように取り組んで参りたいと思っておりますので、意見というよりは感想になってしまうかもしれませんが、コロナ禍の中で中々大変な状況では、こういったパラダイムシフトがおこっている中でも前にとにかく進んでいけるようにいきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

横張委員長

伊東委員が、「古くなったものを綺麗に」とおっしゃいましたけれども、最近、若い人と話をしていると、「綺麗に」という感覚が変わってきていることを痛感します。我々の世代などは「綺麗にする＝立て替える・つくり替える・新品にする」と考えてきたところが多いと思います。

しかし、今の若い人達は、むしろそういう発想は「ダサイ」ととりますよね。古いものをうまく自分なりに使いこなしたりリノベしたりすることが「かっこいい」という風に、ガラッと価値観が変わってきていると思います。私の娘も、ブランド品や新しいものには全く興味がないですね。ヴィンテージ品をあつかう古着屋を回って、自分だけのものを探してくるのが一番かっこいいんだ。そういう感覚なんですね。

もちろん、地震で倒壊しちゃうというのでは困りますが、そうではない限りは、綺麗であるとか新しいということよりも、自分のライフスタイルにあっていることの方が大事だ、といった具合に、価値観が変わってきていることは、様々な側面で考えていく必要があるのではないかなと思いますね。

他にいかがでしょうか。秋田先生いかがですか。

秋田副委員長

松戸駅周辺の地形的な高低差に関しては、課題でもあるけれども魅力でもあると思っています。このような地形の特性を持っている場所は、他にはなかなかない。先ほど横張先生からご指摘があったように、松戸にしかないオンリーワンを大事にしたい。江戸川も、特殊な地形も、松戸オリジナルです。そういうものをより磨いていくような構想になっていけば市民の方々にとっても誇れるものになるのではないかなと思っています。

横張委員長

そうですね。是非それをご検討いただければと思います。これは他市の例で申し訳ないのですが、その市では街づくりをめぐり市民ワークショップをしており、そのなかで、これからの街づくりのキャッチフレーズを何にしようということが問われました。

これまでですと、「1番になろう」とか「最も大きい××を造ろう」とか、そういうことを目指しがちだったのですが。これは市民の方から出たものなのですが、「ちょうどいい」をキーワードにしたいという意見が出され、これが採択されたと聞きます。非常にいい言葉だなと思いました。「1番良い」とか「1番新しい」とかじゃなくて、自分たちの暮らしにとって「ちょうどいい」ものが過不足なく揃っていることが大事なんだと。

松戸もまさにそういう発想に立つべきだと思うんです。こういっては大変失礼かもしれませんが、松戸に首都圏で1番のものがあるかという、なかなか難しい。しかし、いろんなものがひとつ揃っていて、それが日々の暮らしにとってちょうどいいものでありスケールである。そういう街づくりが必要だと思います。

あと最後に、インターネットで検索していただきますとすぐ出てきますので、もしご興味があったらご覧いただきたいのですが、「世界経済フォーラム」という団体がございますね。この団体が2019年に出したレポートがございまして、それは、これから人類を待ち受けているであろうリスクに関するレポートです。

このレポートのなかに印象的なグラフが一つあります。何かといいますと、様々なリスクが起こるであろう度合いとその危険度を縦軸と横軸にして示したグラフです。これを見ると、感染症の蔓延というのは、グラフのちょうど真ん中辺なんです。つまり、そこまで発生日合いも高くないし、危険度もそこまでではないということなんです。じゃあ、感染症の蔓延よりももっと高い所にあるのは何かというと、気候変動に対する軽減・適応策の失敗とか、様々な自然災害、更にはデジタル技術にかかわる様々な障害。こういった辺りが、感染症の蔓延よりもずっと高い所に布置されています。

ということはどういうことかということ、今回のこの感染症の蔓延は、これから人類を待ち受けるもっと過酷なリスクの序章に過ぎないってことなんです。もっともっと人類の生存にとって致命的なことが待ち受けていますよ、ということかと。

したがって、言い方は不適切かもしれませんが、今回の感染症の蔓延を上手く使って、より過酷な状況に対する準備を進めることができれば、あの時準備しトレーニングしておいたおかげで、適切に対処できるかもしれない。でも、ここで十分な準備やトレーニングをしておかないと、より甚大なことが起こった時に、完全にお手上げとなってしまうかもしれない。そのように、このグラフは読めるかと思うんですね。

大学で教鞭を執る身として、学生に対して、「君たちが社会に出たときには、もっとひどいことになるかもしれないぞ。それを常に念頭に置きながら、今のうちにちゃんと準備するかどうか、そこに私たちの社会の未来がかかっているんだぞ」と講義等で言うのですが、そういう観点もまた、30年という時間のなかで松戸のまちづくりを考える上では、決して失ってはならない視点なのではないかと考えています。

すみません、私ばかり申し上げて。皆さま方がでしょうか。まだ、ご発言いただいていない委員の方々いらっしゃいますか。もしよろしければいかがですか。

よろしいですか。では、特にご意見ございませんようでしたら、議題の2番目の方に入りたいと思います。

事務局説明

横張委員長

次の議題は、パブリックコメントの実施についてですね。これにつきましても、まず事務局より概要のご説明をお願いいたします。

新拠点整備課

それでは、事務局からパブリックコメント実施についてご説明いたします。

本日ご審議いただきました、新拠点ゾーン整備基本計画（案）についてパブリックコメントを実施します。

公表につきましては、10月15日号の広報まつど及び、松戸市公式ホームページにて行います。実施期間は、10月15日から11月13日まででございます。

募集方法は、市ホームページの専用フォームのほか、郵送、FAX、Eメール及び、持参となります。

以上、ご説明とさせていただきます。

審議

横張委員長

ありがとうございました。

今ご説明いただいた形で、これからパブリックコメントを実施したいとのことですが、本件につきましてご質問ご意見をいただけますでしょうか。

秋田副委員長

パブリックコメントを集めた後のスケジュールを教えてくださいとありがたいです。

新拠点整備課

まだ、具体的にピタリとは申し上げられないですけれども、パブリックコメントが11月13日までなので、そちらについてご意見を収集して、事務局としてどのように考えるか考えを付加した上で、改めてまちづくり委員会にてご報告の場を設けさせていただきたいと考えております。

秋田副委員長

ありがとうございます。

横張委員長

他に皆さんいかがでしょうか。

太下先生ももし何かございましたら、いかがでしょうか。

太下委員

はい、大丈夫です。

横張委員長

かしこまりました。他にいかがでしょうか。

秋田副委員長

パブリックコメントでは今日の資料のどちらを出されるのでしょうか。

新拠点整備課

パブリックコメントでは、新拠点ゾーン整備基本計画（案）、今は素案ですけども、今回のまちづくり委員会で公表させていただいた上で（案）として、あげさせていただくということと、概要版を付記いたします。

秋田副委員長

わかりました。

横張委員長

どうもありがとうございます。他にいかがでしょうか。

はい、特にございませんようでしたら、本日の主要な議題は以上の2つでございまして、その他という事にはなりませんけども、何か皆さま方よりこの場でご発言いただけることがございましたらどうぞ。

岩田委員

はい。

横張委員長

はい。お願いいたします。

岩田委員

今日議題となっている新拠点ゾーンの基本計画（素案）とは、直接関係あるかわからないのですが、先ほど委員長のほうからもありました、これからの気候変動の中で、去年の台風では、あれだけの洪水が起きた。そうした中で、ここに書いてある、江戸川が決壊した場合に、松戸駅西口では4.2メートルの水位まで上がる。そうすると、先ほど申し上げましたように私駅前なんですけれど、うちのビルの2階近くまで水が上がってしまう。うちには地下もありまして、余計に地下だと危険度が高い。例えば江戸川の決壊で4.2メートルぐらいが相当されるのですが、松戸市の場合、中小河川の危険度といいますか、浸水想定区域ですか、それは設定されているんでしょうね。

横張委員長

事務局、いかがでしょうか。

新拠点整備課長

浸水想定区域につきましては、平成 27 年度に水防法が改定されまして、江戸川につきましては、29 年の 7 月に江戸川が決壊した場合の想定区域というのが国土交通省より発表されて、これまでは計画規模というのが 200 年に一度の浸水被害を想定して堤防などの構造を計算して作られて 200 年に一度の雨では決壊しないというような構造になっております。

しかし、近年の想定を大幅に上回るような災害が多く発生していることを受けて、考えられ得る最大規模の計画規模で発生した時の浸水想定が公表されました。これは、1,000 年に一度の大規模水害になります。当然江戸川につきましては、200 分の 1 の確率での堤防になっていますので、1,000 年に一度の大雨が降った場合は、決壊することが予測されます。

この水防法の改定を受けて、千葉県が管理する坂川ですとか新坂川についても同様に想定されて、その水害想定といった所が公表されているところでございます。

しかしながら、これだけの水害には、当然、川の機能としては対応できないものですから、予めそれをソフト対策としてどうやって避難するだとか、避難していただくための考え方、こういった所を松戸市としても地域防災計画などを策定する中で、お示ししていくことになるかと考えております。以上です。

岩田委員

はい、わかりました。

これから、老人福祉施設とか、そういうのを作る時にもそれを十分活かしながらやっけないとまた悲惨なことになってしまうのかなと思いますので、重々お気を付けいただき、やっていただきたいなと思います。

横張委員長

ありがとうございます。

大変大事なポイントだと思いますね。ちなみに、松戸市のハザードマップについて、内水氾濫はカウントに入っているんでしょうか。

新拠点整備課長

はい。現在の松戸市の河川というのは、中小河川、坂川、新坂川は、最終的には江戸川に排水機場で排出することとなります。江戸川につきましては、逆流する危険がある場合には、水門を締めます。水門を締めてポンプで排水しているわけですが、ポンプの能力には限界がありますので、そこで内水氾濫が起きます。現在も松戸市内での低い地形の所では、内水氾濫が発生しておりまして、内水のハザードマップというものも作成して公表しているところでございます。

横張委員長

ありがとうございます。

近年の短時間の集中豪雨に関しては、河川の氾濫以上に内水氾濫による冠水が頻発するようになっている。ということだと思います。内水氾濫についても、十分な配慮が必要になってくると思います。

他にいかがでしょうか。はい。お願いいたします。

林委員

すみません。2つほどありまして、江戸川というのがシンボル軸を含めまして、特にふれあい松戸川なんです。構築して20数年水はきれいになりましたけれども、だいふれあい松戸川の周辺というのはふれあい松戸川になっていないんですね。木がそのままひっくり返ったりしておりまして、荒れ放題でございます。従って、社会的環境でございますので、あくまで50万近い都市の仲間をふれあい松戸川、江戸川越えると都内でございますので、自然環境と社会環境でございますので、やっぱり環境整備をしていただきたいと思います。最近、あのハクビシンですか、あれがうろちょろうろちょろしておりまして、町内、自治会、この辺の周辺をうろちょろしております。ちょうどわたくしも江戸川に近いところがありますが、ちょうど花火大会が始まると10万、20万、人が集まる環境でございますので、ぜひふれあい松戸川が環境整備をしていただくと同時に、もう一つは昨年、一昨年、まちづくり基本構想の中で、松戸東口含めまして松戸シンボル軸というのをできておりますので、できましたら江戸川までですね、シンボル軸でございますが段階的に予算の声もあるかと思うんですが、台風が50メートルくる中で、やっぱり電線がひっくり返ったりするような状況の中で、電線の地中化も含めまして、シンボル軸を段階的に予算を見ながら、構築していただきたいと思っております。

2点でございます。以上よろしく申し上げます。

横張委員長

ありがとうございます。

これも。事務局の方でお応えがございましたら、よろしくお願いいたします。

新拠点整備課

シンボル軸の整備については段階的にという風に林委員がおっしゃっていたように、あのすべてを一緒くたに全部できることではないので、段階的に検討していきたいと思いません。

新拠点整備課長

ふれあい松戸川につきましては、やはり、松戸の特徴として水とみどりといったところが

良く上げられます。ふれあい松戸川につきましては、当初、国土交通省が江戸川の堤防の中に作った浄化施設、ここを通過して、水が浄化されたものが坂川に流されてふれあい松戸川が、清流が戻ってきたという風な形で行っていましたが、その浄化設備自体が、かなり老朽化もありまして、現在、ちょっとその辺の水の濁りだとか、そういったところも指摘されているところで行っています。こうしたことを受けて、国土交通省と担当でよく話をした中で、改善なんかも要望して参りたいと考えております。

横張委員長

よろしいでしょうか。どうもありがとうございます。

他に何か、ございますでしょうか。事務局はいかがでしょう。

新拠点整備課

事務局では特に行っていません。

議事終了

横張委員長

了解しました。

それでは、ほぼ予定された時間にもなりましたことですし、以上を持ちまして本日の議事を終了させていただきます。進行を事務局の方にお返ししたいと思います。

司会

ありがとうございました。

それでは、傍聴の皆さまにお願いいたします。本日、配布資料はお持ち帰らず、椅子の上に置いたままご退席いただきますよう、お願いいたします。報道関係の方も機材等お忘れにならないようご退出をお願いします。委員の皆さまにおかれましては、そのままお待ちください。

(傍聴者・報道関係者退室)

司会

それでは、事務局よりお知らせがあります。次回の委員会の開催日につきましては、11月27日を予定しております。開催通知は追ってお送りさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上を持ちまして第13回松戸駅周辺まちづくり委員会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

この議事録の記載が真正であることを認め、署名する。

令和2年10月21日

松戸駅周辺まちづくり委員会

議事録署名委員 今 達也 委員
岩田 富久司 委員